

それぞれの愛のカタチ―秋穂―

ク
ア
ト
□

■作品概要

△サークル▽

癒し庵もち猫（シナリオ／効果音／音声編集…クアトロ）

△ジャンル／年齢指定▽

バイノーラル音声作品／全年齢

△作品ボリューム▽

90m 台詞文字数11,945文字

△舞台▽

現代／秋穂家の旅館／秋穂の部屋

■登場人物

△ヒロイン▽

名前 … 秋穂（アキホ／17歳）

人物 … 彼女である聴き手とは幼稚園からの幼馴染／優等生でクラス委員長

眼鏡っ子／眼鏡を外すと実は美少女

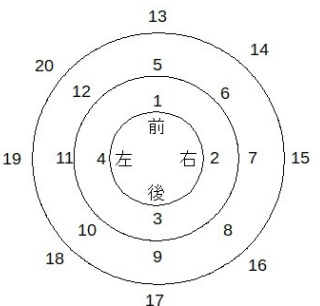
見た目は地味だが内面は快活で多くの男女から慕われている

有名旅館の長女で家族から大切にされている

趣味／特技…料理／茶道／書道／読書

△聴き手▽

彼氏 … 高校生（17歳）／不器用／秋穂家の旅館を当たり前の様に訪れている



△台詞位置の指定図▽

図はマイクとの距離を示しています
1～4は30cm
5～12は50cm
13～20は1mを想定しています
距離が取れない場合、
こちらの音量調整等に対応します

1…秋穂との帰路（通学路／夕方）

（二人の足音）

（位置二／有声音）

ねえ…、ねえってばっ…！

さっきから上の空って感じだけど、ウチの話、聞いている…？

じゃあ、何の話してたか、言ってみて？

あー、もー、やっぱり聞いてなかったんじゃないん…。

今日もウチに来るかどうかって話っ！

そういう所、君の悪い癖だよ？

ウチが一生懸命話してるのにさ、一人で考え事してるんだもん…。

で？

今日はウチの温泉、入って行くの？行かないの？

入って行くのね、オッケー。

所でさ…、さっきは何を考え込んでたの？

卒業後…？

あー、そっか…。

ウチら来年の春で卒業だもんね…。

卒業か…。

あ、もしかして、卒業したら会えなくなるかも、って思ってた？

それについては心配する必要ないじゃん。

何でって、君さー…、家（いえ）が隣り同士って事、完全に忘れてるでしょ？

君の家は、旅館つるの屋の隣りでしょう？

はあ…、やっぱり…。

もー、ほんととそういう所、抜けてるよねー。

会うのは別に学校だけじゃないって、何で気付かないかな…。

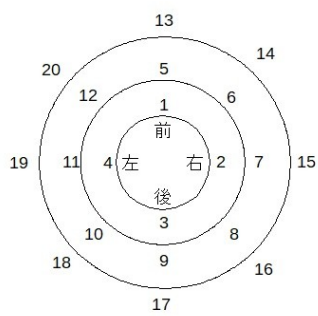
まあいいや。

じゃあ、今日も温泉に入って行くって事で、お母さんにメッセージ送っておくね。

あ、そっだ。

夕飯はどうしよう？

ねえ、今日は何を食べたい？



うん、食べたいもの、何でも言ってみて。

え、ちよつと…、待って待ってっ！

流石にそんなにたくさん言われたら無理だって…。

どれか一つ、選んで？

オッケー、ハンバーグね♪

大丈夫だって、任せてよー。

板長のテツさんから教わった、すっごく美味しい和風ハンバーグを作ってみせるから♪
テツさんってね、若い頃に料理の大会で、優勝した事もあるんだってっ！

そう。

ウチの旅館には欠かせない人っ♪

あー…、確かに見た目は…、ちよつと怖いかも…。

でもでも、笑うとくしゃくしゃの顔になるんだよ♪

本当ですー。

君が知らないだけですー。

君だってテツさんに気に入られてるんだから、少しぐらい料理とか教えてもらったら？
ほら、そうやって苦手意識を持つてるから、怖いって感じるんだって。

テツさんだって君の事、認めてるんだよ？

だからさ、ウチをモノにしたいなら、テツさんは味方につけておいた方がいいよ♪

ふふっ♪

冗談冗談っ♪

まあもし家族や周りが、君との交際を反対するなら、

駆け落ちしてでも君を好きでいる覚悟は出来てるんだもんね♪

そう。

だから君も、それなりの覚悟をしておいてよね♪

よし、お母さんにメッセージ送った。

ん？

もう返信が来た。

ぷふっ♪

お母さんったら、「お熱いです事、ヒューヒュー♪」だって。

まああからかってるだけだと思うけど、老舗旅館の若女将とは思えない内容だよね…。

って事でー、覚悟は出来た？

お？引き締まったい顔してる♪

あはっ♪

ずっとその顔だと笑っちゃうつ！

そう、普通でいいの、普通で。

そう…、ありのままの君がいいの…。

なーんちゃってっ♪

さて、帰りの途中でスーパーに寄るよっ。

流石に食材は、旅館のものを使って訳にはいかないから。

そうそう。

お客さんの人数に合わせて仕入れてるから。

って事で、スーパーに向かってゴーゴーっ！

2…秋穂と温泉（つるの屋の大浴場／夜）

（お湯をかける音）

（湯舟に入る音）

（大浴場の扉が開閉する音）

（秋穂の足音）

（位置18から1へ移動しながら／有声音）

お客さん、つるの屋自慢の源泉かけ流し大浴場はいかがですかー？

（位置1／有声音）

あっ、ごめんごめん。

ビックリさせちゃった？

ウチだよ、秋穂。

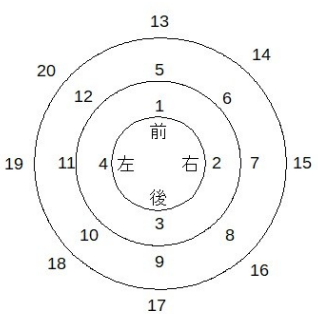
（秋穂が湯舟に入る音）

何でここにいるって、知りたい？

えっとね…、お母さんに頼んで、一時間だけ貸し切りにしてもらったの。

えー、いいじゃん別にー。

職権乱用じゃありませんー。



これも君の将来のため、なんだから。

あ、あー…、将来っていうのはほら…、あーはは…。
特に深い意味はないよ。

まあいいじゃない。

だって一緒にお風呂って、いつもの事だし。
そう。

いつも通り、つるの屋の温泉を楽しんで♪

あ、そうだ。

(位置「からゆつくり」へ移動しながら／有声音)

ウチの手作りハンバーグ、どうだった？

そっか…、美味しかったか…。

よかった♪

ウチさ、将来、いいお嫁さんになれそうじゃない？

でっしょー♪

あ、ねえ、その顔、自覚なしって顔だね。

(ため息) はー…。

これだから君って人は…。

ねえ、スーパーで見かけたカップルが居たでしょ？

あの二人って、実は恋人同士だったかもしれないね？

ウチは咄嗟に、「兄妹かな？」って言うっちゃったけど、

あのラブラブオーラは恋人同士っぽかったんだよねー。

いいなー、ああいう関係って憧れちゃう…。

将来は、あんな風にいちやいちやしたいっ！

(ため息) はー…。

君って本当に鈍感だよね…。

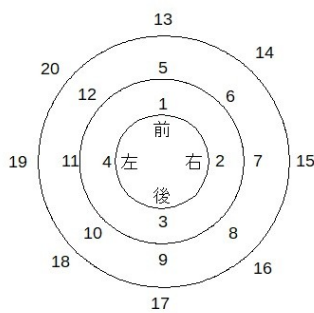
何が言いたかったっていうと、ウチもああいう風にべったりしたい時もあるって事っ！

あー、今ちよっと面倒臭いって思ったでしょ。

嘘だー。

何年の付き合いだと思ってるの？

君の考えは、顔を見ただけで分かっちゃうんだからっ。



まあいいけどね。

今の関係に不満がある訳じゃないし。

(位置5から1へ移動しながら／有声音／小声／セクシーに)

でもさ…。

ウチだって女の子なんだよ…。

(位置1／有声音／小声／セクシーに)

彼氏にもっと構って欲しいって思うのは、いけない事…、かな？

ウチはね…、君が望むなら…、すべてを差し出す覚悟は出来てるんだよ…。

ねえ…、もっとウチを見て…。

もっとウチを求めて…。

(ここまでセクシーに)

なーんてねっ♪

ぷはっ♪

君ったら慌てた顔して♪

ほーんと、見てて飽きないよねー♪

あ、でも…、さっき言った事は冗談ばかりじゃないよ？

さあねー？

どれが本当で、どれが冗談だったか、試してみたら？

ほら…、ほーらっ。

あははっ♪

これは冗談でしたー♪

はあ…、面白かった♪

あ、そっだ。

君さ、もうシャンプーとかした？

そう。

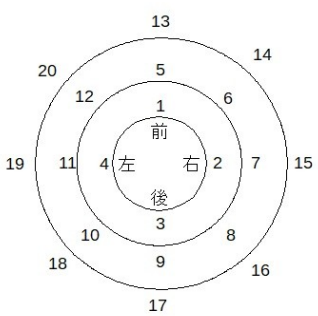
じゃあさ、今日もウチが洗ってあげるよ。

ほら、一旦上がって？

(湯舟から出る音)

(位置2／有声音)

ねえ君、何で前かがみになってるの？



気にするなって言われると、余計に気になるんだけど。

ふーん、まあいいや。

んじゃ、そこに座って？

(足音)

(位置②から③へ移動しながら／有声音／小声)

いつも通り、ウチが使ってるお風呂セットを持ってきたからさ、これを使うね。

(位置③／有声音／小声)

温泉に置いてあるシャンプーってさ、使うと髪がキシキシになっちゃうじゃない？

だから変えてってお母さんに何度も言ってるんだけど、

業務提携してるからーって中々聞いてくれないんだよね。

ま、大人の事情ってやつ。

さてと…、先ずは…。

シャンプーからね♪

(シャンプー手に取る音)

いつもウチが使ってるやつんだけどさ、君ももう結構使ってるよね。

ウチはそこに置いてあるシャンプーとトリートメントじゃ、キシキシして嫌だからさ、

天然由来100パーセントのやつを使ってるんだよね。

君ももう何回も使ってるから知ってると思うけど、サラサラのツヤツヤになるでしょ？
そう。

ウチはそれが気に入ってて、これを使ってるんだー。

それにほら、泡立ちもいいし、洗ってあげても、

しっかり洗えてるなって実感できる所も、ポイント高いんだー。

よし、かなり泡立ってきたから、ゴシゴシっとしていくね♪

あ、痒い所があったら言ってる？

ゴシゴシゴシー♪

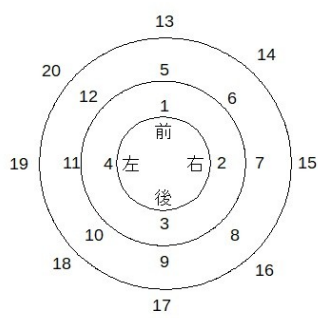
ゴシゴシ…、ゴシゴシ…。

うーん、やっぱり何回嗅いでも、このシャンプーの香り、好きだなー。

何ていうか…、ハチミツっぽい香り…？

ただ甘ったるい香りって訳じゃなくて、ほのかに香るっていうのが決め手だよね♪

ほら、すれ違う時にフワッと香るの、素敵じゃない？



遠くから香水の香りみたいにプンプン匂うと、逆に不快って思う人もいるからさ。だってほら、君と一緒に歩いてる時に、隣りからキツイ匂いが漂ってたらどう思う？そう。

だから、これくらい控えめで、近付いた時だけ香るっていうのがいいの♪分かる？

さっすがウチの彼氏。

好みも一緒に嬉しいな♪

それにさ、ウチが抱き着いた時にフワツといい香りがしたら、興奮しない？

君だけが知ってる匂い…、それって素敵な事だと思うんだよねー♪

そう。

好きな人の匂いって特別だからさ。

って…、さっきからウチ、匂いについて熱く語っちゃってるね…。

匂いフェチなのかな、ウチ…。

君は？

好きな香りとかあるでしょ？

ウチの部屋…？

あー、分かるかも。

好きな人とか恋人の部屋って特別感あるよね♪

お部屋用の消臭剤とか芳香剤ってあるけど、ウチはそういうの使ってないんだー。そう。

あれは多分、ウチの匂いなんだと思う。

つまり君は、ウチの匂いが好きなんじゃない？

照れなくてもいいでしょ？。

別に變だなんて思わないし、ウチも君の匂い好きだから…。

よしっと。

そろそろ洗い流していいっか。

お湯かけるよー。

(お湯をかぶる音)

もう一回。

(お湯をかぶる音)

泡は…残って…ないね…。

じゃあ次、トリートメントをしていくね♪

おっと、その前にー、タオルドライしなきゃね♪

日頃からタオルドライしてないと、面倒って思うかもしれないけど、

これをしないと水分でトリートメントが薄まっちゃって、効果が発揮出来ないらしいよ。

(タオルで髪を拭く音)

(位置～／有声音／小声)

ウチ？

ウチは毎日タオルドライしてる。

えっとね、目安は髪を握っても水分が出てこないくらいなんだってさ。

これくらいかな？

じゃあトリートメントを馴染ませて…。

(トリートメントを髪に馴染ませる音)

よし、こんな感じかな？

まあ君は、ウチ程髪が長くないから、ササっとタオルドライすればよくて楽だよねー。

そうは言ってもウチ…、時間のない時とかは、サボっちゃうんだけどね♪

だってー、テレビとか配信とか、見たいのがあったら急いで出たいじゃん。

でしょー？

(位置～から～へ移動しながら／有声音／小声)

ウチだって推しとか居るし、君だって居るでしょ？

(位置～／有声音／小声)

え？

ウチ推し…？

やだ…、急にどうしたの…？

照れるじゃん…。

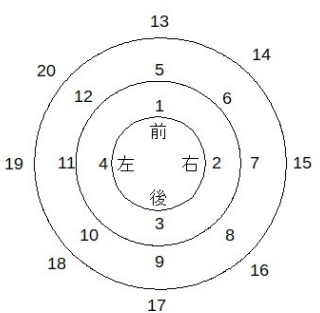
でもそうやって愛情表現してくれるの、嬉しい…。

付き合いが長いから、言わなくても分かる事も多いけど、

やっぱり好きって感情は特別だからさ。

そっだよー。

好きってという言葉は何回言われても嬉しいものの♪



ウチもね…、君の事、好きだよ…。

えへへ♪

改まって言うと、言った方も照れちゃう…。

えーっと…。

(位置4から5へ移動しながら／有声音／小声 照れ隠しをする様に)

そうだった、もうそろそろトリートメントを流そっか？

(位置3／有声音／小声)

ねっ？そうしょ？

はい、じゃあ、そういう事で流しまーす。

(ここまで照れ隠しをする様に)

(お湯をかぶる音)

もう一回。

しっかり洗い流さないね♪

(お湯をかぶる音)

さて、ウチもササッと洗っちゃうから、先に湯舟に入ってたて？

いいのいいの。

大浴場の中とは言え、身体を冷やして君が風邪引いちゃったら大変だもん。

ほら、湯舟に浸かるっ！

(背中をパシパシ叩かれる音)

(湯舟に入る音)

(しばらく湯舟の音)

(秋穂の足音)

(位置18／有声音)

おっまたせー♪

(秋穂が湯舟に浸かる音)

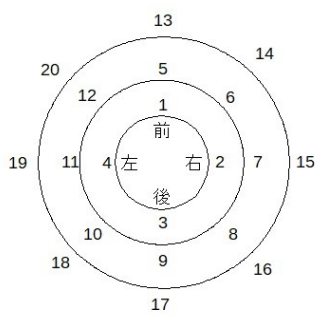
(位置2／有声音／小声)

ふうー…。

やっぱりウチの大浴場は骨身に沁みるねえー。

あー、年寄り臭いとか言わないのっ。

いいじゃん。



温泉ってそういうものなんだから。

あ、そうだ。

温泉ってさ、アルカリ性とか酸性とかあるじゃない？

日本ではね、中性の温泉が多いんだって。

でね？

ここの源泉も中性なんだけど、ややアルカリ性寄りだから、美肌効果が見込めるって訳。その上、肌の弱い客さんでも入れるって所が、ウチの旅館の人気の秘密なんだって。

まあ人気の秘密はそれだけじゃないんだけどね♪

板長のテツさんが考えた料理は、どれも絶品だし♪

若女将であるお母さん…、実は美人だって評判なんだよ♪

後は…、アクセスがいい割に、自然一杯な所も評価が高いね♪

あ、それに、最寄り駅から、シャトルバスが出てるのも大きいかもっ。

他人事（ひとごと）みたいに語ってるけど、将来はウチも女将を継ぐのかー。

うーん、嫌って訳じゃなくて、不安の方が大きいかな？

何代も受け継がれてきた旅館だからさ、プレッシャー感じちゃって…。

そう。

もう今から少しずつお手伝いとかしてるけど、やっぱり従業員のみんなをまとめたり、

それに接客もしなきゃだし、覚える事が山程あるんだー。

そういう意味も込めて、今はクラス委員長を任せてもらってるんだよね。

そういう事。

今の内からでも大勢をまとめたりする技量と、責任感ってのを養っていかないと。

なーに驚いたような顔してるのさ。

ウチが何にも考えてないとも思った？

ちやーんと、数年…、うーん、数十年後の事まで考えてるんだからっ。

あ、その人生設計には、君も含まれてるから、よろしく♪

ちよっと、キョトンとした顔しないでよ。

ウチら、遊びで付き合ってるんじゃないんだから、自覚してもらわないと困るんだけど？

意味？

嘘でしょ…。

ここまで言っても分からないの…？

(ため息) はあー…。

これは先が思いやられるなー…。

いい？

ハッキリ言わせてもらうけど、君はウチと結婚する予定になってるのっ。

ウチの親も、女将であるおばあちゃんも認めてるんだから。

おばあちゃんなんてね？

「早く既成事実を作ってしまったえーっ」とまで言ってるんだよね？

え？

あー…、既成事実って言うのは…、ほら…、アレだよ…。

恋人同士や夫婦がするアレ…。

(ため息) はあ…。

分かってないって顔してるね…。

まあいいや。

この話は追々していこ？

っと、もうそろそろ出よっか？

自慢の大浴場だけど、時間も来てるし、流石にこれ以上はのぼせちゃう。

うん。

しっかり身体を拭いて、湯冷めしないようにね♪

(湯舟から出る音)

(足音)

3…秋穂の誘惑 (秋穂の部屋／夜)

(位置)／有声音

ふうー…。

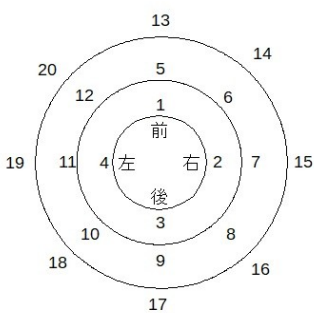
いいお湯だったねー♪

で？

さっきウチの部屋の匂いが好きって言ってたけど、どう？

そっか、安心する…、か…。

ウチから聞いておいて何だけど、改めて言われると照れちゃうね♪



何がそんなに香るのかな？

さっき言った通り、芳香剤も置いてないし…、香水も今は付けてないし…。

(秋穂が近付いてくる足音)

(位置「から」へ移動しながら／有声音／小声)

やっぱりさ、ウチ自身の匂いが好きなんじゃないの？

(位置「」／有声音／小声)

ほら、嗅いでみてよ。

え、近い？

何を今更…。

あ、もしかして、ウチを意識しちゃってる感じ？

ねえー、どうなのー？

ウチとしては願ったり叶ったりなんだけど。

もう…。

君ってさー、奥手って言うか、素直じゃないっていうか、ほんと不器用だよねー…。

彼女がこんなに近くに居て、匂いを嗅いでって言うてるんだよ？

つまりそれは…、好きにしていって事と同意なんだから…。

(秋穂の足音)

(秋穂が抱き着いてくる音)

(位置「から」へ移動しながら／有声音／かなり小声)

君から来ないなら…、ウチから行っちゃうんだもんね♪

(位置「」／有声音／かなり小声)

やーだー。

離れないもーん♪

君が鈍感で、こういう事に不器用だからいけないんだよ♪

(耳「ふー」一回) ふー…。

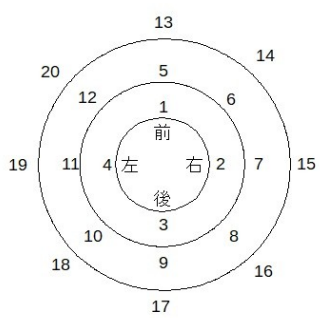
ふふっ♪

効果てきめんだねっ♪

もう一回。

(耳「ふー」一回) ふー…。

あ、こーら、避(よ)けないでっ。



(耳ふー一回) ふー…。

(位置[△]から[△]へ移動しながら／有声音／かなり小声)
反対側もやっちゃおっと♪

(位置[△]／有声音／かなり小声／セクシーに)

(耳ふー一回) ふー…。

おおー、こっちもいい反応だ♪

(耳ふー二回) ふっふー…。

ほら…、ウチの唇がお耳に触れそうだよ…。

(耳ふー一回) ふー…。

ウチの息…、あったかいでしょ…？

ふっふっ♪

でしょー？

ねえ…、その気になった…？

さっきから、ウチの胸があたってるの、気付いてるでしょ…？

そう…、わざと。

君をその気にするための、奥の手♪

知ってる…？

ウチね、結構…、胸…、あるんだよ…？

そう…。

昔とはもう違うの…。

ねえ…、目を逸らさないで…。

ウチを見て…？

触りたい…？

君が触りたいなら…、いいよ…。

それとも…、しちゃう…？

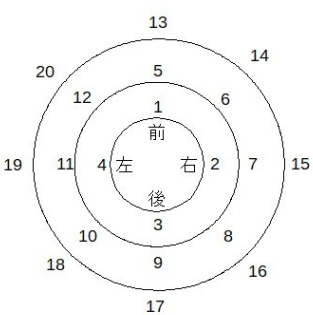
何をって、この期に及んでまだそんな事を言ってるの…？

そんなの決まってるじゃん…。

この流れでするって言ったら…、アレしかないでしょ…。

ウチは心の準備…、出来てるよ…？

君は？



聞かせて欲しいな…。

本当…？

いいの…？

じゃあしよつか…、耳かきっ♪

(秋穂が離れる音)

(位置「／有声音／小声」)

あははっ♪

もしかして、本気にした？

あー、ごめんってばー。

怒った…？

そっか、よかった。

(位置「から」へ移動しながら／有声音／小声／真面目なトーンで)

あー…、心の準備は出来てるっていうのは、本当…。

(位置「／有声音／小声／真面目なトーンで」)

でもね…、無責任なのはウチも駄目だと思ってるから、安心して？

そう。

まだちょっと早いかなんて思ってる。

え？

そんなに本気に見えた？

そっか…、今度からは気を付けるね…。

それにしても…、君が真面目な人でよかった…。

それに比べてウチったら…。

え？

卒業してから…？

そっか…、君もちゃんと考えてくれてるんだ…。

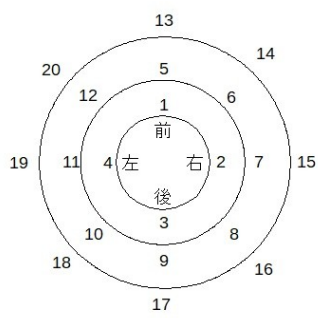
嬉しいな…。

そっだよ。

君ったらいつも話を逸らしたりするから、

てっきり冷めちゃってるのかなって思う事があったから…。

そっかそっか…。

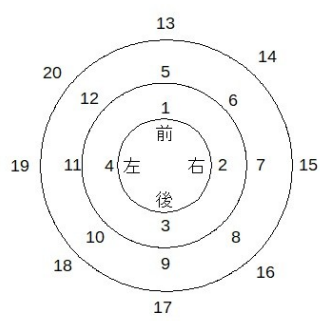


(二)まで真面目なトーンで)

(位置₅／有声音／小声)

じゃあさ、ウチの初めては、君にあげる♪
何って、それはー…、色々♪
さてさて、話が脱線しちゃった。
ほら、耳かきしてあげるから、横になって？
勿論、膝枕、だよ♪

(寝転がる音)



4…秋穂との思い出(秋穂の部屋／夜)

(位置₅／有声音／かなり小声／ゆっくり)

じゃあやっていくね♪
うん、見慣れた耳穴だ♪
えーっと…、ふむふむ…、なるほど…。
この前やったばかりだから、流石に汚れは少ないね。
でもさ、やって欲しいでしょ？

ふふっ♪
ちやーんとやってあげるから、安心して？

じゃあ耳かき棒、入れるよ？
カリ…、カリ…。
カリ…、カリ…っと…。

気持ちいい？
そっか、よかった♪
ふふっ♪

いい顔してる♪

ウチは、君のこの顔を見るのが楽しみなんだー♪
君も耳かきしてもらうのが好きだし、ウィンウィンだね♪
ねえ、突然なんだけど、ウチらって、昔から何をするにも一緒だったじゃない？
そう。

産まれた年が一緒に、家が隣同士っていうのもあって、毎日の様に一緒に居たよね。おままごとも…、虫取りも…、あと一緒にお昼寝したり♪

で、そうやって何気なく遊んだりしてたけど、その歳ながらにふと考えちゃったんだよね。もし君と離れ離れになっちゃったらどうしようって。

結果的に今こうして付き合ってるけどさ、時々そうやって不安になる事があったの。最初はね、何でこんな事を考えちゃうんだろう、って思ってた。

でもある時、気付いたの。

ああ、ウチは君の事が好きなんだ…、って…。

それが今から十年くらい前の事。

意識し始めてからは、些細な事で嬉しかったり、時には嫉妬したりしてたんだ。特にあの時…。

ほら、君が美術の授業で制作した絵が、金賞を取った時があったじゃない？ 県議員のお偉いさんに表彰までされちゃって…。

で、その時、周りの女子から凄い凄いつて囲まれてたの、覚えてる？ そう。

あの時はもう、君を取られちゃうって…、気が気じゃなかったよ。君もデレデレした顔しちゃってさ。

で、我慢できなくなって、ウチが割って入っちゃったんだよね。

普段は君に無関心な女子が、君の何を知ってんのさって思っちゃて。

まあその時からウチはクラス委員長だったから、至って冷静だったんだけど。そう、あれはとーっても冷静だったんだよ？

嘘じゃないもん。

この前だってほら、大通りのカフェに寄ったでしょ？

あそこの女性店員さん、すごく美人だったじゃない？

君ったらその店員さんを目で追っちゃって。

ウチ気付いてたんだから。

でも君だって男の子だもん。

綺麗な人が居たら、そりゃ見ちゃうよなーって、敢えて言わなかったんだよ。ね？

ウチ、冷静でしょ？

ほらね。

で、あの店員さんがそんなによかったんだ？

へー…、黙っちゃうって事は、そういう事でいいんだね？

何？

聞こえない。

もう一回、ハッキリ言って。

ウチが好き…、それは間違いない？

まあいいけどね。

あの店員さんだったら、ウチだって憧れちゃうもん。

美人でスタイルもよくて、キラキラ輝いてた。

ウチは…、地味だし、普段から目立たない人間だからなー。

まあでもウチ、これでも男子からも女子からも結構モテるんだよね。

え…、気付いてなかったの？

今年のバレンタインデーも、男女からたくさんチョコ貰ったんだから。

そういえばさ、貰う度に、「少しの間だけ眼鏡を外してもらえませんか？」

って言われるから、そうしてたけど、あれは一体何だったんだろ？

へ…？

眼鏡を外すと美人…？

ウチが…？

えっと…、今更おだてても無駄なんだけど？

嘘じゃない…、って…。

それ本当？

そっか…、そうなんだ…。

じゃあさ、ウチもコンタクトにしようかな…？

何で駄目なの？

眼鏡属性…？

何それ。

へー…、そういうのがあるんだ。

まだあるの？

うん…、うんうん…。

たまに外すのがいい？

眼鏡を？

ギャップ萌え…？

ふーん、それで眼鏡を外して欲しいって言われたのか…。

君さ、案外ウチの事、見てるんだね♪

ううん、変な意味じゃなくて、その逆。

嬉しいなって♪

そしたらさ、君は、ウチが眼鏡してる時と、外してる時、どっちが好きなの？

えー、両方…？

君らしいといえば君らしいけど、相変わらず優柔不断というか何というか…。

でも、そういう所も含めて、ウチは好きだよ♪

そう。

君のすべてが好き…。

いざ付き合うつてなるとさ、好きっていう気持ちか、

段々薄れていっちゃうカップルもいるじゃない？

でもウチは違う。

君の事を知れば知る程、好きになる…。

出会つてもう長い付き合いだけど、まだまだ君の知らない所があつて、

それを見つけたのが楽しいんだ♪

君は…、もう少しウチに興味を持ってくれてもいいかなって思う。

まあ強要はしないけどね。

さつきも好きって言ってくれたから、それで十分かな♪

だって、この先も長い付き合いになる予定なんだからさっ♪

むう…。

また自覚なしって顔…。

それともウチみたいな重い事を言う子は嫌い…？

本当…？

そっか、よかった♪

よしっ♪

もうそろそろこっちのお耳は終わろうか？

うん、梵天でふわふわしていくね♪

ふわふわー…。

ふわ…、ふわ…。

ふわふわー…。

(耳ふー一回) ふー…。

もう一回。

(耳ふー二回) ふー…、ふー…。

オッケー、綺麗になったよ♪

じゃあ次は反対ね？

反対向きにゴロンってしてくれる？

(寝返りの音)

(位置〜／有声音／かなり小声／ゆっくり)

はい、こっちもお耳掃除、していくねー♪

そう言えばさ、君が観たいって言ってた映画…、もう始まつてるんじゃない？
だよね。

何か初日から凄い動員数だったらしいよ？
そう。

グッズなんかも直ぐに売切れちゃったって、話題になってたもん。

君が観たいって言うからさ、ウチも気になってたんだよね。

いつ観に行こうか？

来週の土曜？

うん、いいよ♪

予定空けておくね♪

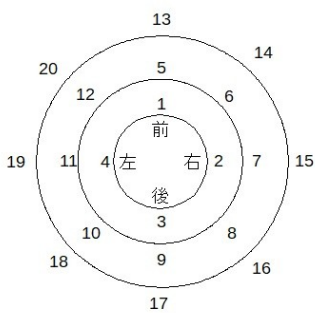
と言うか、ウチの予定は、君最優先だから♪
いいのいいの。

ウチがそうしたいんだから、気にしないで？

映画かー。

二人で映画を観に行くって、実は久しぶりじゃない？
だよね。

最後に観たのは…、そう、あの三部作の最終章っ！



あれもよかったよねー♪

君もウチも好きなシリーズだったからさ、二回観に行ったつけ♪
それで、二回とも泣いちゃった…。

だってあのラストは切なすぎるもん…。

二回目なんて特にそうだった…。

この後に待ち受けてる事を考えたらって思うと、感極まっちゃって…。
君ったら、ハンカチを差し出してくれたよね。

あの時、嬉しかった…。

でもさ、君も泣いちゃってて…、

ああ、共感してくれてるんだって思っ、もつと嬉しかった…。

君って、普段は鈍感なくせに、映画とかでは感情が表に出るタイプだよな♪
上映中は暗いから、泣いても平気ってのもあるのかもだけど。

それに感動したり、悲しかったら、素直に泣いてもいいと思うんだ。

そうだよー。

別に涙脆いから嫌とか、ウチはそんな事は思わないし。

むしろここで泣かなかったらいつ泣くの？

ってなるよりはマシ。

まあ何にせよ、映画に限らず、人の心を揺さぶるものって好きだなー。

そういう意味では、君もその内の一人なんだよ？

そう。

ウチにとっては心のより処だし、欠かせない存在…。

いつも…、ううん、いつまでも君を想ってドキドキしていたい…、そう思ってる。

別に特別な事はしてくれなくていいの…。

確かに歳をとったり、色んな経験をしていく上で、変わって行く事もあるかもしれない…。

ウチも今のままじゃないだろうし…。

うん。

環境次第で変わっていくものもあると思う…。

長い付き合いの中で、何も変わらないなんてないから…。

変わっていくっていうのは、その人の成長でもあるからさ…。

勿論、これだけは駄目だって思ったら、ウチが支えるから…。

そう。

君が何かに挫けそうになったり、道を踏み外しそうになったら、

ウチがビシッと言ってやるんだから♪

うん♪

覚悟しておいてよね♪

所でさ、さっきから呼吸が荒くない…？

どうしたの？

あー…、もう…、やっぱり匂い嗅いでる…っ！

人が真剣な話をしたのに、君って人は…。

いくらウチのお腹側が近いからって、そんなに嗅がないでよ…。

ちよつと恥ずかしいじゃん…。

うーん…、嫌じゃないけど、ウチの話…、ちゃんと聞いてた？

そう、それならいいんだけど…。

あーもう…、こういう時こそビシッと言ってやりたいけど、

君の幸せそうな顔を見たら、強く言えないなー。

あはは…、さっきウチの意志を伝えたばかりなのに、もう揺らいでるの…。

こういう所、ウチも君に甘いんだなって思う…。

まあ今回は特別♪

えー、いいの♪

何だか今日は、君との距離が、もーっと縮まった気がするからさ♪

実際、こんなに近いし♪

(キスの音) チュッ。

あはっ♪

近すぎてキスしちゃった♪

別にいいじゃん。

それとも何？

ウチにキスされて、嫌なの？

黙ってたら分かんないよ…。

っと言いたところだけど、君、顔がニヤけてる♪

やーっぱり嬉しかったんじゃないっ！

ねえねえ、ウチにキスされると、こういう気持ちになる？
うん…、うんうん…。

ぷふっ♪

何それ♪

百メートルを八秒って、それ世界記録だから♪

しかも今の世界記録より、一秒以上速いんだけど♪

でもそっか…、嬉しくて身体が軽くなる…、か…。

ねえ、君からはキス…、あんまりしてくれないけど、

そういう愛情表現って好きじゃ…、ない？

へ…？

照れる…？

えー、ウチらの関係に、照れる事なんてある？

登下校も毎日一緒に、それにほぼ毎日お風呂にも一緒に入ってる仲だよ？

それなのに…、照れる…？

そっか…。

まあ確かに、キスってちょっと特別な感じがするよね。

でも君？

将来的にはキス以上の事をするんだから、ちゃんとの準備はしておいてよねっ♪

お、段々と話を通じる様になってきたね♪

でもそれは、さっきも言ったけど、まだ先の話…。

とは言え、そう遠くない未来…。

ウチは…、これまでも…、これから…、君のものだからさ…♪

うん♪

よろしくお願いします♪

さてっと、そろそろこっちも梵天で綺麗にしていくな？

ふわふわ…。

ふわ…、ふわ…。

ふわ…、ふわ…。

(耳ふー一回) ふー…。

ふーわ…、ふーわ…。

(耳ふー二回) ふー…、ふー…。

はいつ、こつちもお終いつ♪

あ、ちよつとそのままでいて♪

(キスの音) チュツ。

えへへ…、またキスしちゃった♪

どう？

また身体、軽くなった？

ぷふっ♪

羽が生えて飛んでっちやいそう…、か…。

うーん…、それは駄目かな？

だって…、飛んでっちやったらウチから離れちゃうじゃん。

だからだーめっ♪

君はぜーったい離さないんっだからっ♪

あ、そっだ。

今晚泊っていかない？

大丈夫だって。

悪いようにはしないからさっ♪

あはは♪

冗談はさて置き、実はもうお布団も用意してるんだよね♪

(位置でこの方を向きながら／有声音／かなり小声)

ほら、あそこ。

(位置で／有声音／かなり小声)

お母さんが、どうせ泊っていくんだろうつて、持って来てくれたの。

だから…、ね？

今夜は、お布団を並べて、一緒に寝るの♪

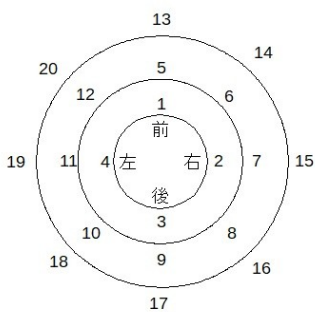
何もしないから平気平気♪

それに泊っていく事自体はいつもの事じゃん♪

あー、でもー、君があんまりにも無防備だったら、あるいは…。

ふふっ♪

それはナイシヨ♪



って事で、泊って行くでしょ？

オッケー♪

じゃあ早速お布団敷いちゃおうよ♪

うん、そうしよ♪

あ、ピッタリくっ付けて敷いてよね？

えー、近い方がいいじゃん♪

何なら、一緒のお布団で寝る？

ウチは…、いいよ…？

君の温もりを感じて…、眠りたいな…。

だーかーらっ、何にもしないってばー。

本当ですー。

さっきも言ったでしょ？

まだ早いつて。

君が…、責任を取ってくれるなら、話は別だけど♪

へ…？

取ってくれるの…？

ちよつと…、急にどうしたのさ…。

えーつと…、と、取り敢えず、お、お布団敷こう？

ね？

って、あれ？

あの…、どいてくれないとウチも動けないんだけど…？

動きたくない…？

どうしちゃったのさ…。

こうしてたいの…？

もう、仕方がないなー。

急に甘えてくるんだもん、ずるいよ…。

ふふっ♪

でも甘えてくる君も好き。

可愛い…♪

じゃあしばらくこうしていようね♪

眠っちゃったら、お布団かけてあげるから♪

いいよ、寝ちゃっても。

うん、分かった。

じゃあお休みなさい…。

ねえ…、こんなウチを彼女にしてくれて、ありがとうね…。

え？

当たり前…？

何で？

ウチの事が好きだから…？

えへへ…♪

ウチも君が好き…、大好き…。

これから…、ううん、この先ずっと…、よろしくお願いします♪

うん、任せました♪